

No.  
55

# 以森伝心

前理事長 柏原康夫筆

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

## 卷頭特集

京都の老舗銘木商が語る

森と人、そして未来を  
つなぐ「木の文化」



| 京都の森の仲間たち  
山仕事サークル 杉良太郎

| 世界の森の仲間たち  
カロード川流域モデルフォレスト(フィリピン)

| 企業参加の森林づくり  
活動報告

京都酢屋 千本銘木商会 銘木師

中川典子



卷頭特集

千本銘木商会の皆さん（京都市中京区の同社にて）

# 京都の老舗銘木商が語る 森と人、そして未来をつなぐ「木の文化」

京都酢屋 千本銘木商会 銘木師 中川典子

鉄道が発達するまで、筏流しによる材木の運搬でにぎわった西高瀬川。その川沿いには材木商が軒を連ね、三条通界隈は木の文化の中心地として栄えてきました。今もその一角で材木商を営む「千本銘木商会」中川典子さんに、時代とともに移りゆく森と人、木の文化の関係について、お話を伺いました。

## 京都に根付く「木の文化」と歴史

千本銘木商会の商いは、森鷗外の『高瀬舟』にも登場する高瀬川での材木運搬に端を発し、江戸時代から続く。中川さんによれば、「龍馬は高知の木材と一緒にやってきたんです」と言う。海援隊の京都の拠点にもなっていたという木屋町三条にある京町家「酢屋」は、現在龍馬ギャラリーと木

工芸の店としてその面影を残す。

「酢屋のある三条木屋町付近は、東海道の終点で、日本中の情報の拠点でもあったんです。その後佐幕派の追求を恐れて書物は焼いてしまったので、龍馬の時代のことは全て先代からの口伝で伝わっているのですが、幼いころから『龍馬さんがね』と、まるで親戚みたいに話を聞かされてきました。」

戦中戦後の物資不足の時期を経て、薪の販売から再出発し、京都の社寺建築や老舗料亭の看板、床の間、茶室、内装材などを手掛けてきた。「一般的の材木屋さんは構造材といって、建物の構造に使われる、普段は目に見えない部分を扱いますが、銘木屋は、目に見える部分を手掛けます。『見立て』と言い、使う人の個性や空間の用途に合わせて最適な木材を選び、コーディネートする技術が必要になります。この人だったらどんな取り合せを好むか、この空



千本銘木商会の丸太部屋で出番を待つ丸太たち

間や住まいだったらどんな材が適切か。いわゆる適材適所と言いますが、お客様のための建築美にも思いを巡らせ、たくさんの素材の中から組み合わせていくわけです。先々代よりまな板から文化財まで、木の仕事は何でもします。」

## 日本と世界の 「森」に対する捉え方の違い

2024年には、フランスの国立ヴェルサイユ建築大学に招聘され、建築を学ぶ学生達に向け、「森林と日本の意匠建築、木の取り合わせ」についての講義をする機会があった。「ヨーロッパの人達って、『森には悪魔がいる』というイメージを持っているんです。人と自然は敵対したものだと。これに対して私は『日本の森にはトトロがいるんです』って話をするんです」。この説明に、フランスの学生たちは大いに沸いたという。

「森には精霊がいる」という私たち日本人の自然観は、神社を取り囲む鎮守の森が日常に溶け込んでいることや、アニミズム的な思考が根底にあるだろう。これはヨーロッパの自然観とは異なるものだ。「日本では山の手入れが生活と密接に結びついていたことも大きいんでしょう。『人は、森によって生かされている』という感覚が自然と身についてきたんですね」。この感覚は欧米を起点とする「自然保護」の考え方とも一線を画す、と中川さんは指摘する。

「祖父は『自然保護』っていう言葉が大嫌いだったんです。人間は豊かになっても台風一つ止められない。自然に生かしてもらってるだけの存在なのに何が保護だ、と」。この言葉には、人が自然を管理し利用する、という欧米的な発想そのものを問い合わせ視点が込められている。自然の恩恵なしに人類の持続的な発展はあり得ないことを認め、自然とともに持続的に共生してきた先住民の伝統や知恵を見直そうとする、世界的な潮流とも通じ合うものだ。

## 里山と人のつながりの変化

中川さんは、日本の森林の変化にも目を向けている。かつて薪の供給源や生活の場として人々の生活と密接に結びついていた里山で、経済発展による土地利用の変化とともに手入れが行き届かなくなったりした結果、土砂崩れなどのリスクが高まっていると指摘する。

各地での土砂崩れなどの災害が、単なる自然災害ではなく、人が里山との関係性を変えたことによって引き起こされた「人間と経済の問題」であるとし、「この変化が、里山をなくした人間の責任

## 銘木市場や山での苦難と成長

300年を超える千本銘木の歴史の中でも、「板の千銘」と称された祖父の存在は、中川さんの活動の大きな原点となっている。若くして亡くなった父や先々代の後を継いで飛び込んだ、吉野の山や銘木市場での修業を振り返る。「当時市場は男性社会で、『女が市場に来ると相場が下がる』とも言われていました」。



奈良の原木市場

こうした状況にもめげず、独特のサインで瞬時に銘木の値段が決まっていく市場での「手振り」を習得し、市場が始まる前、夜明け前からセリにかけられる木材の状態を見極めるため土場に入るなど苦労を重ね、番頭である下西さんと二人三脚で次第に「目利き」の力を養っていった。

当時は現場に女性用トイレもなければ、山で置き去りにされることもあった、と明かす。「でも当時があるからこそ人脈もでき、今ではあちこちの山の木こりさんたちから、『こんな珍しい木が出たけど典ちゃん要らんか』と情報が入ってくるようになりました」。これらの経験が全て、全国の山と繋がる「目利き」のネットワークの土台となっている。

であるというのをもっと自覚して、自然との向き合い方を考えないといけない。」と語る。

また、林業従事者の減少、気候変動による山林の変化が「木こりさんたちの勘を狂わせる」ほど深刻化していることなどに触れ、人と自然が共生する「木の文化」の継承が難しくなっている、と警鐘を鳴らす。

## 「床の間」に宿る 日本の美意識と未来への継承



国内で和室や床の間の需要が減少していることについて、中川さんは危機感を抱く。「床の間には、お花も、書道の軸も飾ることができますし、茶道では亭主の美意識の表現そのものとなります。総合芸術なんですね。」と、床の間に凝縮される日本の美意識と文化の奥深さを重視する。

特に、アメリカから千本銘木に勉強に来た学生のアリストン氏のエピソードは象徴的だ。彼は建築を学ぶ前に木について知りたいと考え、「木の建築と言えば日本」だと、ネットでの情報を頼りに木材について学びに来たという。「日本ではこの部分にはこの木じゃないといけない、とよく聞くけど、その理由をきちんと教えてくれる、日本以外にはない銘木屋という職種で学びたかった。」と、さらに情報を辿り、千本銘木商会にたどり着いたという。



ベテラン職人長澤さんの仕事を見つめるアリストン氏

全国各地から集めた多種多様な材を京都の数多くの老舗や伝統建築のために提供してきた千本銘木商会で、中川さんの「目

利き」の技術と木の取り合わせ、木の文化、自然観を学んだ彼は、現在、フランスのヴェルサイユ国立建築大学で学び、来年からは隈研吾設計事務所で働くという。

## 繋がりが拓く新たな可能性

中川さんは、10年ほど前から次世代を担う子どもたちに木の魅力を伝える「木育」にも力を注いできた。「当時、京都は『木育の未開地』なんて言っていたんですが、2017年に壬生寺で開催した「木育縁日」には、2日間で1600人の親子が来てくれたんです」と振り返る。



近年では、林業関係者から家具職人、**木育イベントの様子**

工務店まで、90を超える団体が「木」という共通のキーワードで集う京都市コンソーシアム「木と暮らすデザインKYOTO」の統括プロデューサーを務める。木材の生産から加工、利用に至るまでを包括し、森と街をつなぐ新たな連携を生み出そうとしている。こうした幅広い取り組みが評価され、今年2月には「京都環境賞」を受賞した。

今後は国内外に向けて日本の伝統文化である「床の間」の奥深さも伝えていきたいと語る。木の総合プロデューサーとして、日本の豊かな木の文化を未来に繋ぐという中川さんの使命感は、人と自然が共生する「木の文化」を再構築し、未来に繋ぐためになくてはならない原動力だ。

### なかがわ のりこ

銘木師。京都市に300年以上の歴史を持つ老舗材木屋「酢屋」(現在は株式会社千本銘木商会が継承)の専務取締役。

全国銘木青年連合会会員、京都市木材青年会OB。

京都市環境大使である「DO YOU KYOTO?ネットワーク」呼びかけ人。木材利用の普及に関する活動が評価され、高知県観光特使にも就任。2025年「木と暮らすデザインKYOTO」統括プロデューサー就任。





## 京都の学生たちが育む森と人とのつながり 森林ボランティアサークル 「杉良太郎」

京都市北区雲ヶ畠で活動する山仕事サークル「杉良太郎」。京都大学の学生が中心となり、地域の森林整備を行う彼らの活動を紹介します。

お話しを伺った方：菅原さん（理学部3回）、千葉さん（工学部2回）、世古口さん（農学部1回）

### まるで「森みたい」な仲間たち

「僕は北海道の田舎育ちなもので、自然から離れると『うわーっ』てなっちゃう（笑）」と話す菅原さんは、森にいると「時間を忘れる」と言います。「まちなかにいる



と人間以外の生き物ってあまりいないけど、山に行けると自分の周りにいっぱい生き物がいる。なので、なんとなく寂しくないんですよね」と、山がもたらす特別な感覚を語ります。登山経験者の千葉さんは、「登山だと通りすぎるだけでしたが、山仕事だと森にじっくり関われる。今までとは違った視点から山を見つめることができることをサークルの魅力と感じたそう。

「体験に来てくれた子に、『みんな森みたいな人達ですね』って言われたことがあります。人って森に来たら優しくなるのかもしれません。」

### 山のもどかしい現状とどう向き合うか

「杉良太郎」の魅力は、世代間交流にもあります。菅原さんは「普段自分以外の世代の人と関わることはあんまりないですが、ここでは山主さん方とたくさん話ができます」と、話します。千葉さんは「今まで何気なく見ていた山も、誰かによって管理されているんだな、ってことを意識するようになりました」と、活動を経ての気づきを語りました。

地域との関係を築く中で、その課題にも直面します。「山を管理されていた親御さん世代が亡くなり、子どもさんが所有権を引き継いでも、遠方に住んでいたり、連絡が取れないところも多い。整備を申し出たくても、その意思決定すらしてもらえないこともあります」と、菅原さんが現状を語ってくれました。



### 森林での経験が分野を超えてつながっていく

彼らの活動は、それぞれの学びにも影響を与えています。数学を専攻する菅原さんは、「自分の部屋で煮詰まっても、山でリラックスしていると突然ひらめいたりすることがあります」と話します。物理工学専攻の千葉さんは、「林業機械は今でも結構ありますが、森林や林業の中で、まだまだみんなが研究していないような部分もあると思う。将来そんな研究ができたら」と、林業分野における工学的アプローチの可能性に目を向けています。

### いつでも帰ってこられる場として

一回生の世古口さんは、将来、地方の町おこしに携わりたいと話してくれました。「杉良太郎」での経験は、彼らの将来のキャリアにもつながっています。卒業後も山仕事を手伝いに来るOBや、林業以外の分野の仕事についても、山で得た知識や経験を活かすOBもいるそう。彼らにとって「杉良太郎」と雲ヶ畠の山は、いつでも帰ってこられる大切な場所となっています。



森の文化祭

#### 団体プロフィール

##### 山仕事サークル 杉良太郎

設立：平成10年

活動地：京都市北区雲ヶ畠

活動概要：地域の森林整備、「森の文化祭」など交流活動

メンバー数：30～40人



持続的な森林管理について多様な主体が話し合い、実践するモデルフォレスト。1992年の地球サミットでカナダ政府が提唱したこの枠組みは、現在では世界60以上の地域に広がっています。その中から、各地で森林づくりに取り組む仲間をご紹介します。

### カロード川流域モデルフォレスト (フィリピン) / 2003年設立

お話を伺った人:

クリスティン・ベールさん

(カロード川流域モデルフォレスト管理協議会事務局長)



#### 皆さんのモデルフォレストについて教えてください

私たちのモデルフォレストは、フィリピン・ボホール島にあります。カロード川流域の7つの自治体、環境天然資源省や農業省などの国の省庁、ボホール島州立大学、さらにエスカヤ族や若者を含む多様な団体が参加し、森林生態系の回復、森林火災などの災害リスクの軽減、地域住民の持続可能な生計手段の確立、マングローブ林のある沿岸の持続的な管理などに取り組んでいます。



マングローブの苗床

#### 関係者との関係づくりで大切にしていることは何ですか？また、これまで苦労したことはありませんでしたか？

持続可能な森林管理は、関係者皆が当事者意識を持ち、協働することで初めて可能となります。そのため私たちは、皆が発言でき、それが尊重される場を目指し、それぞれの知識やニーズ、視点を計画づくりや意思決定に反映しています。

様々な関係者がいるということは、期待や能力、関与の度合いも異なります。当初は地域住民からなかなか信用を得られなかったり、生計面の制約や時間や人手の問題などから持続的に参加してもらえない、といったこともあります。



これに対応するためにも、関係者との信頼関係を大切にしています。森林回復のためのプログラム一つをとっても、なぜこの事業が必要なのか、目的や利益、期待される成果を、関係者間でしっかりと共有します。計画段階から積極的に加わってもらうことで、自分たちのプログラムだという意識を持ってもらうようにしています。

さらに研修や技術支援などにより、地域住民が自信を持ち、自分たちが活動に参加することが意義のある貢献になっていることを実感してもらえるように心がけています。

#### これまでの成果はどんなものがありますか？

先住民グループや若年層が森林管理活動へ積極的かつ持続的に参加してくれるようになったことです。アグロフォレストリー事業や沿岸地域のマングローブなどの資源管理を通じて、地域住民の新たな収入源ができたことも成果です。重点課題の一つである森林火災に対して、地域主導で対応策を策定し、実行に移すこともできました。



生物多様性や土壤の健全性、水源涵養なども成功の重要な指標ですが、私たちの取り組みが地域のくらしの向上や幸福度などにどのように貢献するかも重視しています。この二つは深く相互に関連していて、どちらを欠いてももう一方が成り立たないからです。

#### 今後の展望について聞かせてください

生態系サービスの重要性への認識の高まり、リモートセンシングやデータ分析の進展、国連生態系回復の10年計画など、最近の流れは私たちの活動にとって追い風です。今後は、若者や先住民のグループにも、さらに主体的に取り組みに関わってもらえばと思っています。

これからも、モデルフォレストを通じて、利害関係者が協調し知識や知恵を結集することで、生態系を守り、現在だけでなく未来の世代の生活の質を向上させることができる、ということを示していきたいと思っています。

# 企業等参加の森林づくりだより

(協会に送付いただいた活動報告より抜粋して掲載しています)



|          |  |
|----------|--|
| 3月15日（土） | 三洋化成工業株式会社（和束町）<br>エルセラーン化粧品株式会社（長岡京市） |
| 3月22日（土） | 三共精機株式会社、佛教大学（南丹市）<br>株式会社村田製作所（亀岡市）   |
| 4月 5日（土） | 株式会社島津製作所（南丹市）                         |
| 4月19日（土） | グンゼ株式会社（綾部市）<br>株式会社村田製作所（亀岡市）         |
| 4月25日（金） | ワタキューホールディングス株式会社（井手町）                 |
| 4月26日（土） | KDDI株式会社関西総支社（大山崎町）                    |
| 5月11日（日） | エルセラーン化粧品株式会社（長岡京市）                    |
| 5月24日（土） | グンゼ株式会社（綾部市）<br>株式会社村田製作所（亀岡市）         |
| 5月31日（土） | 公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金（南丹市）              |
| 6月 5日（木） | 日東精工株式会社（綾部市）                          |
| 6月15日（日） | KDDI株式会社関西総支社（南丹市）                     |



三洋化成工業株式会社



エルセラーン化粧品株式会社



三共精機株式会社、佛教大学



グンゼ株式会社



ワタキューホールディングス株式会社



KDDI株式会社関西総支社



公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金



日東精工株式会社



## 3月8日

イシダ三方良しの会、  
株イシダ、  
株中央倉庫協

「イシダの森で  
春を探そう」  
イシダの森  
(京都市左京区)



企業がうの寄付による  
豊かな森を次世代へ  
植樹・環境教育事業



## 4月20日

国際ソロブチミスト  
京都協賛

「春の衣笠山を  
歩こう！」  
衣笠山（京都市北区）



## 4月12日

イシダ三方良しの会、  
株イシダ、  
株中央倉庫協

「イシダの森で  
新緑を楽しもう！」  
イシダの森  
(京都市左京区)



## 5月18日

キヨーラク百年の森  
基金事業

「北山杉を知ろう！  
丸太磨き体験」  
北山杉の里  
総合センターほか  
(京都市北区)



# 事務局からのお知らせ

## 活動報告

### 皆様からいただいた 「緑の募金」に対し、感謝状を贈呈しました

令和7年2月

株式会社平和堂様

令和7年2月4日

京都北都信用金庫様

令和7年2月27日

大和ハウス工業株式会社

京都支店様

(「緑の募金付き自動販売機」  
売上より)

令和7年3月

株式会社ハバリーズ様

令和7年3月3日

ダイドードリンコ株式会社様  
(「緑の募金付き自動販売機」の  
売上より)

令和7年3月7日

京都府ホンダ会様  
(ハイブリッドカー販売台数に  
応じたご寄付)

令和7年7月3日

オムロン ソーシアル  
ソリューションズ株式会社  
「みんなでつくる  
エコ活サークル」様



### 子どもたちの森林体験学習のためにいただいた ご寄付に対し、感謝状を贈呈しました

令和7年2月18日

株式会社中央倉庫様



令和7年2月19日

国際ソロプチミスト京都様



令和7年3月6日

一般社団法人  
イシダ三方良しの会様



### 令和7年度定時総会を開催

令和7年6月25日

令和7年度定時総会を開催し、令和6年度決算及び  
役員の選任について承認されました



## 緑の募金ご協力のお願い

緑の募金は、地域や学校の緑化活動や、未来を担う子どもたちの  
森林環境教育などに使われています。皆様のご協力をお願いいたします。



### ●郵便振替や銀行振込で

- 郵便振替  
00920-7-239523  
京都モデルフォレスト協会緑の募金
- 銀行振込 京都銀行府庁出張所  
普通 3154305  
公益社団法人 京都モデルフォレスト協会 理事長 安藤孝夫

窓口の利用で  
振込手数料等が  
免除されます

令和7年春 募金実績

**9,373,345 円**

ご協力ありがとうございました

### ●商品購入や募金箱で

「緑の募金付商品」を購入したり、「緑の募金箱」に直接募金することでご協力いただけます。「緑の募金付商品」開発・販売や募金箱の設置等、様々な形でご協力いただける店舗様、事務所様も募集しています。

**SUNTORY**

 **WATAKYU  
HOLDINGS**

入会案内資料をご希望の方はご連絡ください。

発行:  公益社団法人  
**京都モデルフォレスト協会**

〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL&FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <https://www.kyoto-modelforest.jp>  <https://www.facebook.com/KyotoModelForest>

